

2 委員会及び各 WG の記録・検討経過

(1) 新川崎地区新設小学校基本構想検討委員会

①第1回 新川崎地区新設小学校基本構想検討委員会

- ・ 日時：10月29日（月）14:00～17:00
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第6学習室
- ・ 参加委員 30 名

i) 議題

- ・ 新設小学校の計画概要についての説明
- ・ 新設小学校に関連する市の現状の取り組みについて各局からの説明

ii) 委員からの主な意見

(地域活性化・地域資源活用に関して)

- ・ 新設校では、周辺地域の交流を促進する地域開放が望まれる。
- ・ 横並びでなく各学校が特色ある教育・授業を行うことが推進されており、新設校においても地域資源を活かした運営が期待される。
- ・ ナノテクなどの地域資源技術は小学生には高度であるため、どのような形で展開できるかについて工夫が必要である。
- ・ 新川崎地区では、企業やK2タウンキャンパス等において一般向けのイベントも多く開催されている。
- ・ 小学校の理科教育と新川崎地区の活動領域では専門性という点で距離があるが、まずは関係を徐々に深めていく中で模索していく必要がある。

(防災面に関して)

- ・ 体育館は平常時の快適性だけでなく、災害時の避難施設としての整備も考慮していく。
- ・ 自主防災組織も高齢化が進んでおり避難所運営が手薄となるため、若い世代の活用を検討している。
- ・ 新築マンションは耐震性能が優れ建物が崩壊しないため、住民増＝避難者増とはならないだろう。
- ・ マンションと学校との連携を考慮すると、マンション側の防災、備蓄計画も把握しておくことが望ましい。

(環境配慮に関して)

- ・ 再生可能エネルギーの導入について、単なる設備導入でなく、ソフト面での活用にも配慮する必要がある。
- ・ 学校施設はゼロエネルギー化を実現しやすい建物用途である。
- ・ 体育館の断熱性の向上は、省エネルギーだけでなく、避難所としての居住性にも貢献することができる。

②第2回 新川崎地区新設小学校基本構想検討委員会

- ・ 日時：12月20日（木）10:00～12:00
- ・ 場所：川崎教育文化会館 第7会議室

- ・ 参加委員 20 名
- i) 議題
 - ・ 計画の背景及び具体的項目の検討体制等についての説明
 - ・ 各 WG での検討状況について
- ii) 委員からの主な意見
(基本理念等について)
 - ・ 複数の目標を打ち出してしまうと学校への負担感が大きくなってしまう。時間をかけて検討したい。
 - ・ 開放や交流等について、周辺地域のニーズを確認しておく必要がある。
 - ・ 地域性を含めた検討をしていくには、開校前の受け入れ校である小倉小・南加瀬中をメンバーに加えるべきと考える。

③第3回 新川崎地区新設小学校基本構想検討委員会

- ・ 日時：2月13日（水）10：00～12：00
- ・ 場所：川崎教育文化会館 第4会議室
- ・ 参加委員 16 名
- i) 議題
 - ・ 基本理念及び施設整備方針等について
 - ・ 配置計画について
- ii) 委員からの主な意見
(基本理念等について)
 - ・ 住民のいない新設校であるため、テーマを出来る限り絞る方が望ましい。
(小学校建設に関連する法律について)
 - ・ 関係法令において、「都市の低炭素化の促進に関する法律（エコまち法）」「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」なども記載する。
(防災に関する取組について)
 - ・ 幸区の区民会議等においても、防災関連の検討が行われている。防災教育という視点も重要である。
 - ・ 現在、小学校においては防災教育を相当に行っており、今後はカリキュラム化される方向ですでに内容が検討されている。
(環境教育の小学校建設における取り込み方法について)
 - ・ 科学技術教育促進の象徴的機能の付与を構想しているが、要否も含めて今後も検討する。

(2) 教育理念WG

①第1回 教育理念WG

- ・ 日時：12月19日（水）10:00～11:30
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第7会議室
- ・ 参加委員8名

i) 議題

- ・ 学校づくりの基本理念に関する検討の方向性について

ii) 委員からの主な意見

(理科教育推進について)

- ・ 創造のもり等との連携について、既存校での取組みや課題を確認する必要がある。
- ・ 創造のもりとの連携については、最先端の科学技術と小学校教育がどのように関わっているのかについて、何ができるのか見据えた議論が必要である。
- ・ 理科教育の推進校は現在2校、2年で1校ずつ毎年変わっている。継続して推進校とすることは難しい。
- ・ 理科教育の環境が整うことは、理科教育の推進において望ましい。活動拠点の位置づけを明確にする必要がある。
- ・ 建築物の環境対策技術を理科教育の授業に活用することについて、教育課程の中に位置づけることは難しい。太陽光発電やビオトープなどを材料にした取組みはあるが放課後の課外活動という位置づけである。
- ・ 総合的な学習の時間に環境を取り扱う学校は多い。
- ・ 新設校での取組みについて、他校との違いがあまり強調されないように配慮した方がよい。
- ・ 他校にはない取組みの波及効果をきちんと説明できることが重要である。
- ・ 理科室の活用については、安全面の配慮が必要である。
- ・ 一つの学校で多くの課題に取り組むことは難しい。

②第2回 教育理念WG

- ・ 日時：1月31日（木）10:00～11:30
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第4会議室
- ・ 参加委員8名

i) 議題

- ・ 基本構想のまとめ方について
- ・ 敷地における配置ブロック例について
- ・ 諸室の設えについて

ii) 委員からの主な意見

(理科教育推進について)

- ・ 創造のもり等との既存校の取組みについて、現状では模索している状況で具体的なものはない。地域の市民団体や福祉系の団体との連携を図っている。

(建物配置ブロック例について)

- ・ 校舎等の配置について、プールの視き込みへの配慮が必要である。
- ・ 地役権の上に建物を建てることができるかは今後の課題となる。
- ・ 安全面や防災面、環境面、教育活動などの優先順位を確認して校舎配置を行う必要がある。
- ・ 実際の通学を考えるとマンション側にも門があるとよい。
- ・ 特別教室の位置は、開放にも配慮してまとまってセキュリティをかけられる配置が望ましい。
- ・ 開放施設は動線が確保されていれば奥であってもセキュリティ確保の方が重要だろう。
- ・ 防災面から体育館は屋外運動場に面している方が望ましい。

(普通教室のオープン化等について)

- ・ 普通教室のオープン化は長所も短所もある。幅広い利用が可能ため多目的スペースはあった方がよい。
- ・ 多目的スペースは作品展示スペースとしての活用も考えられる。空間を間仕切れば個別の教育相談や子どもが逃げ込めるスペースとしても活用できる。
- ・ オープンだと教室にカーテンを設置して更衣ができない。別に更衣室が必要となる。
- ・ 教材室などの収納スペースは必ず必要である。
- ・ 中一ギャップというものもあるので、高学年は中学校の教室の設えを意識していく必要もある。
- ・ 普通教室は閉じたり開けたりできてフレキシブルな多目的空間があると柔軟性があるといい。
- ・ 学級数の増減で高学年の教室と低学年の教室が入れ替わる可能性がある。学年ごとに特色をあまりつけない方が使いやすい。

(平面計画等について)

- ・ 中廊下で両側教室の配置は風通しも悪く暗い。
- ・ 1 学年 4 学級程度であれば理科室は 1 室で十分だろう。屋根がある実験テラスがあるとよい。
- ・ 特別教室の前にも多目的スペースがあると、実験とディスカッションを分けるなど様々な活用が考えられてよい。

(今後の計画の進め方について)

- ・ 新設校が開校していない時期の受け入れ先である小倉小・南加瀬中との連携は必須であろう。

③第3回 教育理念WG

- ・ 日時：2月5日（火）15：00～16：30
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第4会議室
- ・ 参加委員8名

i) 議題

- ・ 学校づくりの基本理念、目標、施設整備方針の表現や考え方の整理
- ・ 理科教育の推進に新設校が果たすべき役割や機能について
- ・ 諸室の設えについて

ii) 委員からの主な意見

(学校づくりの基本理念について)

- ・ 基本理念について、「教育」「環境」「地域」という三軸はよいが、あまり具体的な目標を示すと実際の学校現場が困ってしまう。

(理科教育推進について)

- ・ 理科室等の施設を充実させても人材の確保が課題となる。
- ・ 学習指導要領も平成30年度には改定さるはずなのであまり教育目標は具体的に書かない方がよい。
- ・ 総合教育センターと併せて、東側地区の理科教育の拠点として利便性を高めるという使い方はありえる。
- ・ 集まりやすく学校側も受けやすいという体制は有効である。
- ・ 拠点として利用するためには、備品の充実、置き場所の確保が必要である。準備を安全に行うにはそれなりのスペースが必要となる。

④第4回 教育理念WG

- ・ 日時：3月11日（月）14：00～16：00
- ・ 場所：川崎市役所第3庁舎15階第1会議室
- ・ 参加委員5名

i) 議題

- ・ 諸室の設えについて
- ・ 基本構想全体について

ii) 委員からの主な意見

(諸室の設えについて)

- ・ 将来の学級数増減を見据えればあらゆる箇所に余裕をもつという訳にはいかないの
で、視聴覚室や多目的ホールなども活用しながら柔軟に対応する必要がある。
- ・ 理科室は屋外とのアクセスが良いことが望まれる。砂場や水場など専用のものがあり
築山などの設えがあるとよい。
- ・ 生活科室は水場を設けておけば理科室としての活用も考えられる。
- ・ 楽器庫はある程度の大きさが必要である。
- ・ 図工室は制作過程のものを保管するスペースがあるとよい。
- ・ 家庭科室について、調理と食事する場所を分けることは配膳の学習にもなりよい。
- ・ 調べ学習は本とPCの両方を利用して行うので図書室とコンピューター室が隣接し
ていると教員が両方を見ることができるのでよい。
- ・ 次回のPC入れ替えからノート型となる。将来的にはモバイル端末に置き換えられて

いっくだろー。

- ・ 現段階では児童に自由にPCを持ちださせるにはリスクが高いだろー。
- ・ 事務センター、校務センターは一体で計画される方が使いやすい。
- ・ 印刷室は校務センター内でなく原則分ける。

⑤第5回 教育理念WG

- ・ 日時：3月21日（木）10：00～12：00
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第4会議室
- ・ 参加委員8名

i) 議題

- ・ 施設ダイアグラムについて
- ・ 基本構想全体について

ii) 委員からの主な意見

（地域活性の方策について）

- ・ コミュニティ創出の仕掛けをするということを謳っているが具体的な内容については今後、検討していく。現在、幸区で30代に対するアンケートを予定しており、そこで住民ニーズ等について併せて質問できればと考えている。

（諸室の設えについて）

- ・ メディアセンターは今後の市民への開放への準備をしておいてもよい。ただし、学校運営の負担とならないよう考慮する必要がある。
- ・ 特別支援学級について、今後は既存よりもより日常における普通学級との交流機会を創出していく方針としている。

（理科教育の推進について）

- ・ 理科教員の研修への場所の提供については、誰が管理していくのか、多少なりとも方針を示すべきかもしれない。学校長はすくなくとも管理者の一人となる。

(3) ゼロエネルギー推進WG

①第1回 ゼロエネルギー推進WG

- ・ 日時：11月12日（月） 14：00～15：00
- ・ 場所：明治安田生命川崎ビル2階 第2会議室
- ・ 参加委員9名

i) 議題

- ・ WGにおける検討内容について

ii) 委員からの主な意見

(面的なエネルギー利用の可能性について)

- ・ 施設単体で公共施設としてどのような環境配慮していくのか整理すべきである。面的にとらえた展開は次の段階であるが、本地域では周辺の基盤がすでにできあがってしまっている。
- ・ マンションとのエネルギー連携は現在の計画においては難しい。
- ・ スマートシティ構想としての位置づけについて、施設単体のゼロエネルギー化は推進していきたい。面としてのエネルギーマネジメントという展開については今後の議論となる。

(創エネ・蓄エネ設備等について)

- ・ 太陽光発電の検討においてはマンション群の日陰の影響について考慮する必要がある。
- ・ 蓄電池について、今後の技術開発も含めて現段階で切り捨てなくてもよいだろうが、コストやメンテナンスも勘案する必要がある。

(ゼロエネルギー化の定義について)

- ・ ゼロエネルギーの定義について、川崎市なりの定義をしっかりとっておく必要がある。
- ・ 文科省のゼロエネルギー検討では給食室が含まれていないが、今回の検討では対象として検討すべきだろう。

②第2回 ゼロエネルギー推進WG

- ・ 日時：12月6日（木）14：00～15：00
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第4会議室
- ・ 参加委員9名

i) 議題

- ・ 基本構想及び施設整備方針について
- ・ WGにおける検討内容について

ii) 委員からの主な意見

(基本構想の内容について)

- ・ 児童の節電意識を高めるようなソフト面での対策も含めて検討する必要がある。
- ・ 今後の児童数の増減に配慮してリプレイスという視点を持つことは重要である。
- ・ リサイクル材の利用についても触れておく必要があるだろう。

(太陽光発電設備について)

- ・ 太陽光発電パネルの設置について、屋根貸というスキームも検討すべきだろう。
- ・ 屋根貸は貸し手側のメリットが見い出せない場合が多い。
- ・ 太陽光発電の発電量についてはマンションの日陰を十分に考慮する必要がある。
- ・ 太陽光発電だけでなく、風力、太陽熱、バイオマスなどの再生可能エネルギー全般についても検討範囲に含めて欲しい。

③第3回 ゼロエネルギー推進WG

- ・ 日時：1月30日（水）10：30～12：00
- ・ 場所：明治安田生命川崎ビル2階 第2会議室
- ・ 参加委員7名

i) 議題

- ・ 基本構想全体まとめ目次案
- ・ WGにおける検討内容について
- ・ 施設の配置計画について

ii) 委員からの主な意見

(基本構想の内容について)

- ・ 建設時のCO₂排出量も踏まえたLCCO₂という視点も必要だろう。
- ・ 目標削減率が実際に達成可能なものか検証が必要だろう。

(再生可能エネルギーの導入検討について)

- ・ 太陽光発電のみでなく、その他のパッシブ的な対策や未利用エネルギーについても検討の余地がある。
- ・ 日陰の影響を加味した太陽光発電の発電量について確認しておく必要がある。

④第4回 ゼロエネルギー推進WG

- ・ 日時：3月18日（月）10：30～12：00
- ・ 場所：川崎市役所第3庁舎15階 第1会議室
- ・ 参加委員8名

i) 議題

- ・ 基本構想全体まとめ目次案及び基本理念等の内容確認
- ・ 諸室及び建物配置の考え方について
- ・ ゼロエネWG関連部分の確認

ii) 委員からの主な意見

(ゼロエネルギー化の実現可能性検討について)

- ・ ゼロエネ仕様の比較対象となっている標準が川崎市既存小学校の実績であったとすると、換気量などの考え方は場所によってまったく異なっており、単純に比較できない。
- ・ 昼光利用については北側が安定的でよいという意見も多く、この段階で南側に限定す

る必要はない。

- ・給食室の給湯量等については環境局とまち局とで連携して、次年度に調査を行う予定があるので、新設小学校の検討におけるニーズに併せて調査内容を調整することも可能である。

(4) 防災機能向上WG

①第1回 防災機能向上WG

- ・ 日時：11月12日（月）13：00～14：00
- ・ 場所：明治安田生命川崎ビル2階 第二会議室
- ・ 参加委員8名

i) 議題

- ・ 防災機能向上WGにおける検討内容について

ii) 委員からの主な意見

(防災機能検討における考え方について)

- ・ 整備予定のマンション計画についてレイアウトや動線等を確認しておく必要がある。
- ・ 市境であり、横浜市の住民が避難してくる可能性もある。
- ・ 現在想定すべきは発災直後のみで、1日程度の経過で各避難者は本来避難すべき場所へと戻っていく。
- ・ 新設される小学校の防災機能が最も高くなるのであれば、それに対応して周辺住民を受け入れることになるのではないか。
- ・ 原則的に学校は一時避難所であり規模的制約もある。小学校の受け入れ規模想定に周辺住民や帰宅困難者は含めない。
- ・ 避難者の想定があるのであればそれを超えた計画をここで行うことはできないだろう。
- ・ 避難者の想定は現在集計中で区単位で出る予定である。
- ・ 付加価値をつけるとすると避難所にはない応急救護機能を持たせる等の考え方があ
- る。
- ・ 防災のみの視点で付加価値を考えると他との違いが際立ってしまうので省エネルギー等の視点も必要だろう。

②第2回 防災機能向上WG

- ・ 日時：12月6日（木）13：00～14：00
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第4会議室
- ・ 参加委員10名

i) 議題

- ・ 基本構想及び施設整備方針について
- ・ 防災機能向上WGにおける検討内容について

ii) 委員からの主な意見

(新設マンションとの防災連携について)

- ・ 新設マンションの防災設備の計画について、市側から最低限の非常用電源の確保をお願いしている。
- ・ 小学校の設計が始まる前に具体的な機能が決定していないと設計条件に含められない。既存施設だけでなく新設の場合の要件として整理されていることが望ましい。

- ・新設校を新旧住民の交流を図る避難所訓練等に活用するというようなソフト面での検討も行っていきたい。

(省エネルギー対策と防砂機能の連携について)

- ・避難所だけでなく校舎の断熱等についても対応して欲しい。
- ・災害の規模によってどの教室を避難所として開放するかは異なってくる。普通教室は原則利用しない方針である。
- ・新設校はゼロエネルギー化の視点から高い断熱性能が確保され、避難所としてもグレードが高くなる。学区の住民があまり避難してこないという状況で新設校をどう位置付けるかは災害規模のケーススタディ等により整理する必要がある。
- ・原則的には平常時の機能が災害時にも活用できるという考え方である。ただし、新設校なので体育館に自立的運営が可能な機能を具備していくことは検討していく。

③第3回 防災機能向上WG

- ・日時：1月30日（水）9:00～10:30
- ・場所：明治安田生命川崎ビル2階 第2会議室
- ・参加委員8名

i) 議題

- ・基本構想全体まとめ目次案
- ・防災機能向上WG資料の確認
- ・建物配置ブロック例の紹介

ii) 委員からの主な意見

(建物配置ブロック例について)

- ・避難者経路は複数確保する必要があるだろう。
- ・防災面から考えると絶対条件ではないが、体育館と屋外運動場は近接していることが望ましい。
- ・救援物資等を運搬するトラックは通常は2t車程度だが、拠点的に使うのであれば4t車程度が寄りつけるとよい。

④第4回 防災機能向上WG

- ・日時：3月18日（月）
- ・場所：川崎市役所第3庁舎15階 第1会議室
- ・参加委員10名

i) 議題

- ・基本構想全体まとめ目次案
- ・防災機能向上WG資料の確認
- ・建物配置ブロック案の紹介

ii) 委員からの主な意見

(諸室の設えについて)

- ・ 諸室の設えにおいて、体育館に以外についても防災的視点からの記載はしておいた方が
良いかもしれない。
- ・ 面積構成において、機械室に関する記述がないが、ゼロエネルギー化の中で何かしら
必要となるように思われるので、どこかで表現はしておいた方が良い。

(エネルギー供給について)

- ・ プロパンガスによる複数熱源化について触れる。
- ・ 風力発電に関する記述はないが、蓄電池付にして夜間の屋外照明などに利用すること
等も可能性がある。

(5) 地域活性化・地域資源活用WG

①第1回 地域活性化・地域資源活用WG

- ・ 日時：11月20日（火）10：00～12：00
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第5会議室
- ・ 参加委員9名

i) 議題

- ・ WGにおける検討内容について

ii) 委員からの主な意見

(学校施設の開放について)

- ・ 施設の開放は運営の担い手があるのでその点に留意する必要がある。
- ・ 学区と開放の範囲は一致しないが、学校開放は学校と地域の関係で築かれるものであるため、学校側が運用状況を把握できた段階から地域と連携していくことが望ましい。
- ・ どのような開放施設が望ましいかはニーズの調査が必要である。老人クラブが集まれるホール、太鼓の練習など音を出してもよい場所に対するニーズはあるだろう。スポーツ施設に対するニーズも当然あるだろう。
- ・ 一般的には学区内のスポーツチームが利用していて他から入りづらく、周辺への開放までは想定しづらい。
- ・ 大会等が開催できる施設整備にして、交流の場とする考え方はある。
- ・ スポーツ活動には、騒音、光害等の苦情もあるので配慮する必要がある。
- ・ 地域の方に活用してもらうには、駐車場も必要になってくるので最低限の確保は検討していく必要がある。
- ・ 特別開放施設を整備するのであれば学区住民でなく広く平等に利用できるが、動線計画に配慮する必要がある。
- ・ 今回の開放施設は、単なる多目的室でなく科学技術教育の視点もあり、これらを実現するための施設整備の計画も明確にする必要がある。

(地域資源活用について)

- ・ 教員研修や講演会等の活用は想定できる。
- ・ 企業や大学に相談する上でも具体的なイメージが必要である。
- ・ 他都市では大学と連携した事業もあり確認していく。

②第2回 地域活性化・地域資源活用WG

- ・ 日時：12月6日（木）10：00～11：30
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第4会議室
- ・ 参加委員10名

i) 議題

- ・ 基本構想及び施設整備方針について
- ・ WGにおける検討内容について

ii) 委員からの主な意見

(学校施設の開放について)

- ・ 学校活動の予定が入っていない時間が開放の対象時間となるが、開放団体の定期スケジュールが先に入っていることがあり開放委員会がその調整役となることが多い。
- ・ 通常の開放では車を使わないのが原則である。新設校で駐車場の設置する場合、周辺とのバランスが気になる。
- ・ 大会等を実施するならば駐車場需要は高いと思われる。
- ・ 防災の視点からも駐車場の設置について整理が必要かもしれない。
- ・ 通常の開放だと既存施設の空いている時間に利用するという考え方であるため新たな整備は行わない。

(地域資源活用について)

- ・ 教材開発を行う上で、対象を小学生とした場合の経験がなく、知識レベルの想像がつかない。
- ・ 地域資源の活用としては、夢見ヶ崎動物公園や地域の歴史研究グループなどとの連携もあるのでは。
- ・ 企業で出張授業を行っているところもあり校長会等で周知していく予定である。

③第3回 地域活性化・地域資源活用WG

- ・ 日時：2月5日（火）13：30～15：00
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第6学習室
- ・ 参加委員5名

i) 議題

- ・ 地域活性化・地域資源 WG 関連基本構想部分資料案
- ・ 学校や地域の特性を踏まえた配置計画案の検討
- ・ WG における検討内容について

ii) 委員からの主な意見

(建物配置ブロック例について)

- ・ 体育館と屋外運動場は隣接している方が使いやすい。
- ・ 周辺の従来からの住民は新設校と関係が薄いので、放送等の音が直接伝わりにくい配慮が必要だろう。
- ・ 音楽室等がマンションに隣接しているのは望ましくない。
- ・ プールが屋上に設置されるのであれば、覗き込み等を気にする保護者も多いので配慮が必要である。
- ・ 教室が南向きでないと暗くなる。屋外運動場に面して南向きが理想である。増築棟を建てる時もその点に配慮が必要である。

(地域資源活用について)

- ・ 創造のものの活動の一環として小学校でイベントを開催するというのも現段階では想像しにくく、子どもたちが創造のもののイベントに参加する形だろう。
- ・ 積極的な企業もあるが、単独の小学校に出かけて行ってイベントを行うという形は難

しいだろう。

④第4回 地域活性化・地域資源活用WG

- ・ 日時：3月14日（火）15：00～16：30
- ・ 場所：川崎市教育文化会館 第5学習室
- ・ 参加委員 5名

i) 議題

- ・ 学校や地域の特性を踏まえた配置計画案の検討
- ・ WGにおける検討内容について

ii) 委員からの主な意見

（地域活性化について）

- ・ 学校菜園の維持管理等に対して、地域のボランティアを動員することがよくある。ボランティアの活動がしやすい平面計画、施設配置にしないと後々の運用段階が大変である。
- ・ イベントという文言が散見されているが、現行では明確に位置付けられていない。ただし、新川崎地区においても川崎市が所管するイベントはあまりない。
- ・ イベントもよいが地域の歴史資源等の解説的なセミナーなどは一般的に小学校等に対して行われている。

3 他都市事例の視察記録

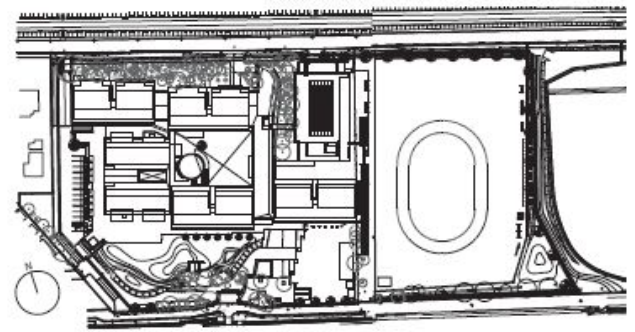
(1) 多摩市立多摩第一小学校

■視察日時

平成 25 年 1 月 25 日 (金) 13:00~16:00

■施設概要

建 築 主：多摩市
 所 在 地：多摩市関戸 3-2-23
 敷 地 面 積：16,124.32 m²
 建 築 面 積：6,105.80 m² (建蔽率 31.14%)
 延 床 面 積：7,973.05 m² (容積率 89.74%)
 構 造：RC 造、一部 S 造
 階 数：地上 3 階
 工 期：2007 年 10 月~2009 年 4 月
 ク ラ ス 数：18 クラス
 児 童 数：637 名



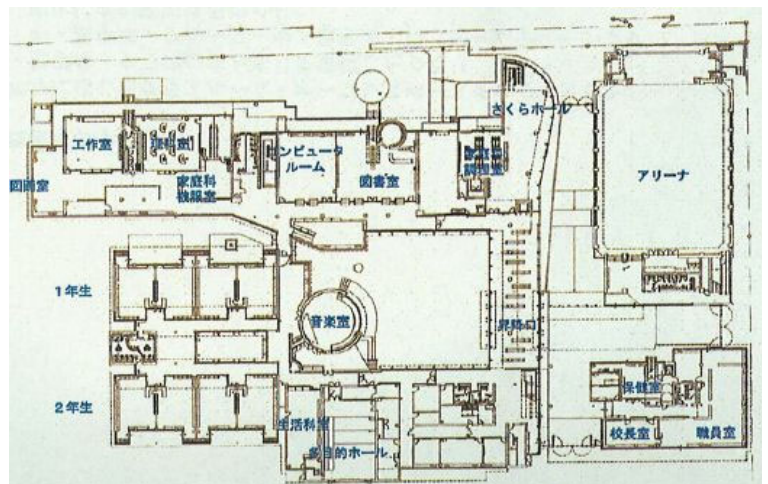
配置図



正門からの外観



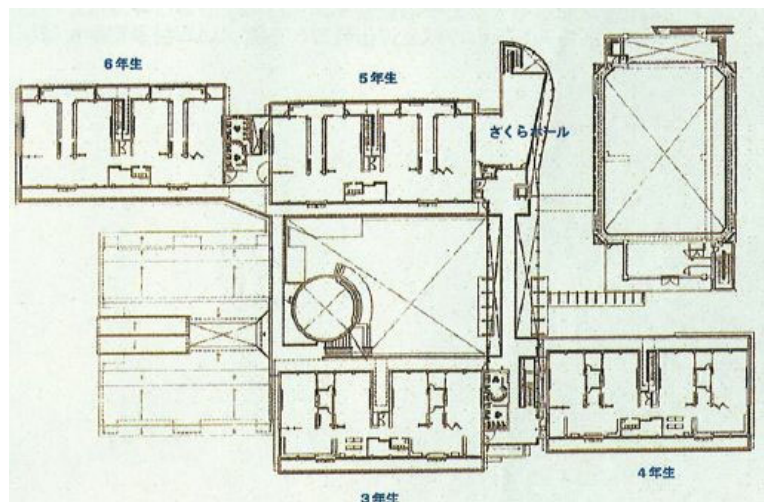
さくらホール前のポプラ並木



1 階平面図



地域開放も考慮した体育館



2 階平面図

■コンセプト（3つの基本方針）

- ・多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
- ・理科教育環境の充実
- ・家庭・地域と連携した施設の充実

■特徴的な取組み

【多様な学習環境】

- ・特別教室群の中心へのオープンスペースの配置による一体的かつ柔軟に融通可能な空間構成
- ・余裕教室とフリースペースの利用による少人数グループ学習の実施
- ・調理室に隣接するランチルームの設置
- ・図書室とコンピュータールームが一体的に活用できるメディアセンターの設置

【理科教育】

- ・理科室での集中力向上を目的とした机の配置
- ・理科室に隣接した屋外バルコニー
- ・理科室への可動間仕切りの設置による柔軟な利用

【地域と連携室施設】

- ・ウッドデッキの中庭を地域に開放

【環境対策】

- ・ビオトープ等の環境との共生空間の設置
- ・施設の長寿命化への考慮
- ・太陽光発電パネルの設置
- ・雨水利用による植栽散水、便所洗浄水
- ・自然採光に配慮したファサード・室配置の計画



自然採光に配慮したハイサイドライト



天井の高い音楽ホール（音楽ホール）



机配置が考慮された理科室



特別教室群バックヤード側の半屋外バルコニー



正門側から見た低層2階建ての校舎外観とビオトープ



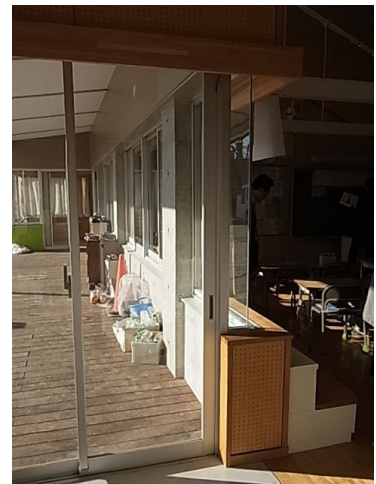
北側に大きな開口部を持つさくらホール



多目的スペースの可動レール



内装木質化の図られたトイレ



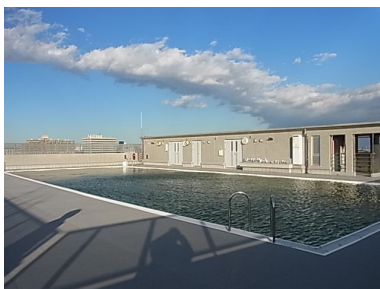
低学年教室横の屋外テラス



コンピュータールーム



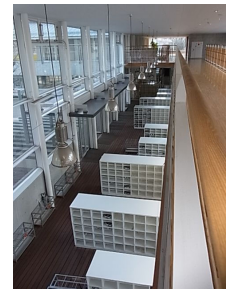
共用部に附置された図書コーナー



特別教室棟屋根のPV 設備



体育館屋根面のプール



開放的な昇降口

【環境対策】

- ・ 床放射式冷暖房（床涼温房）
- ・ 太陽光発電（プールサイドの日除けやバルコニーの底）
- ・ 燃料電池（家庭用、発電出力 1 kw）

【防災対策】

- ・ 地域の病院と連携し、医療拠点として位置づけられている。
- ・ 保健室に薬品・医療器材等の備蓄。災害時は医師会メンバーが派遣され運営。

【地域との関わり】

- ・ けやきホール（学校営業時間中も開放）
- ・ 地域子ども館「あそべえ」（放課後の居場所づくり）



オープンスタイルの普通教室



普通教室に隣接した多目的スペース



廊下と一体となった多目的ホール
（卓球台が設置されている）



閉じられる仕様の学習室
（現在は児童数増加で普通教室として使用）



教壇の前を開けた机配置の理科室



工夫されたデザインの理科室の机 109

参考 4. 打合せ・視察記録



特徴的な配置の図書室



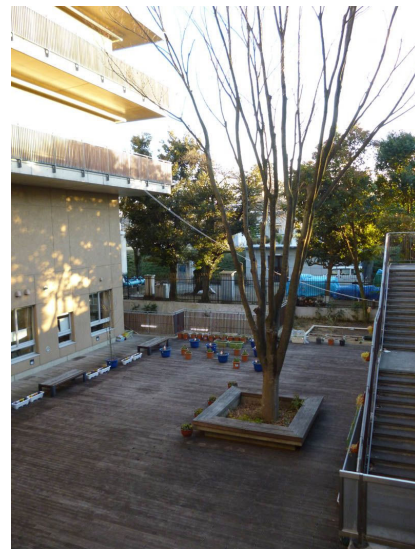
最上階の開放的なランチルーム



道路側の外観



プールサイドの日除けに設置された
太陽光発電パネル



シンボルツリーが配植された
ウッドデッキの中庭



様々な場所に設けられた児童の居場所



学校の中心的施設である階段状のけやきホール